

陳 情 文 書 表

(令和8年5月19日)

<p>受 理 番 号 ・ 受 理 年 月 日 及 び 件 名</p>	<p>陳情第206号（8. 5. 12） 「神戸市バス路線の見直しに関する陳情」</p>
<p>陳 情 の 要 旨</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 高倉台・多井畑を通る市バス路線は現在の便数を維持すること。 2. 8月実施予定の須磨エリアの路線廃止は見直すこと。 3. 75系統など高校生が通学で利用するなどで混雑する路線は増便すること。
<p>陳 情 者 の 住 所 及 び 氏 名</p>	<p>神戸市須磨区 小 澤 隆 行</p>
<p>送 付 委 員 会</p>	<p>都市交通委員会</p>

2026年 5月12日

神戸市会議長 様

(住所) 神戸市須磨区

(氏名) 小澤 隆行



神戸市バス路線の見直しに関する陳情

【陳情趣旨】

8月実施予定の市バス路線の見直しについて陳情いたします。

高倉台を含む須磨区北部は、開発・入居が始まって50年が経過しています。高倉台も高齢化が進み70代の人口が一番多く、80代の高齢者でも地域の中心の担い手となっています。高倉台の中心部にあったスーパーが昨年8月に撤退し、移動販売車の手配には感謝していますが、それだけでは徒歩圏で日常生活を過ごすのが困難となっています。

高齢で自家用車を手放す住民が増えるもとの、神戸市バスは、文字通り「住民の足」であり、通勤、通学、買い物、通院、役所行きなどに欠かせない生活の基盤です。

これまでもバスの減便がありましたが、高校生の利用者も増え、通勤・通学の時間帯には乗れない方も出ています。一方、バスの路線は坂道が多く、高齢者や障がい者、子ども連れの方は、混雑で座れないと転倒の危険性があるので敬遠される方もいます。

これ以上、減便されると、高倉台の地域で暮らしてくための日常生活に支障をきたす状況で、ますます若い方から敬遠される地域になってしまいます。

赤字の路線だから仕方がないと説明されていますが、一方で、大きく儲かっている黒字の路線もあり、生活に欠かせない路線は神戸市から補助をもらってきたとも、お聞きしています。

今回減便や廃止を検討されているバス路線を、赤字だからとか、何人乗っているかなどの一面だけで検討するのではなく、地域の住民生活に欠かせない面も検討していただき、生活を支える基盤として位置付けて、さらなる神戸市の「補助」を受けてでも存続をしていただきたいと思います。

以上の理由から、以下の事項について陳情いたします。

【陳情事項】

1. 高倉台・多井畑を通る市バス路線は現在の便数を維持してください
2. 8月実施予定の須磨エリアの路線廃止は見直してください
3. 75系統など高校生が通学で利用するなど混雑する路線は増便してください

以上